

National University Corporation
Hamamatsu University
School of Medicine

Outline 2011



国立大学法人
浜松医科大学

概要
2011



目 次

学長あいさつ	2
建学の理念等	3
沿 革	4
組 織	8
役職員等	9
職員、学生等	13
学内共同教育研究施設	19
国際交流	21
附属図書館	22
地域・社会貢献	23
医学部附属病院	25
外部資金受入れ状況	31
財務、土地及び建物	32
案内図	33
配置図	35



題字 初代学長 吉 利 和

平成23年度学事

4月5日	入学式
5月13～14日	滋賀医科大学との交流会
6月7日	開学記念日
7月下旬～8月	夏季休業
10月3日	医学科第2年次後学期編入学 及び大学院医学系研究科（博士課程）入学式
10月27日	解剖体慰霊祭
10月29～30日	医大祭
12月中旬～1月上旬	冬季休業
1月14～15日	大学入試センター試験
2月25～26日	前期日程入学試験
3月12～13日	後期日程入学試験
3月19日	学位記・修了証書授与式

ごあいさつ

浜松医科大学は、昭和49年（1974）に設立され、以来37年余経ちました。平成16年4月に法人化され、国立大学法人浜松医科大学に改称しました。法人化後7年経ちましたが、この7年間に法人化による長所を生かし、教育、研究、診療のすべての面において環境は大きく変革されました。しかし、建学の理念は変わりなく、「優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する」ことを目標として、ますます発展して来ているところです。

本学は、医学科と看護学科を有する単科大学です。医学科の卒業生は、国や県などの行政職、大学教授、研究所の研究員、病院の勤務医、あるいは開業医など医療の広い分野で活躍しています。

高度な医療を提供するには、医師だけではなく優秀な看護師も養成する必要があります。平成7年から看護学科を併設しています。平成20年には、深刻な助産師不足に対応して、助産学専攻科を開設しました。また、大学院医学系研究科では、さらに専門知識を高めるため博士課程（医学）と修士課程（看護学）を開設しています。

大学は、研究面において知の拠点としての役割が期待されています。浜松には世界的な企業が集積しており、光技術においても最先端をリードしています。その中で本学は、企業と共同研究や交流を深め、光医学の基礎的、臨床的研究分野に力を注いでいる点が特徴です。これらの研究のためにメディカルフォトン研究センターが活躍しており、顕微鏡、MRI、MD-CT、さらにサイクロトロンおよびポジトロンCT（PET-CT）などを備えています。これらを用いて極微弱光を検出する光技術を活用し、光の分野でミクロからマクロの領域まで、病態の診断研究、薬物動態などの研究、創薬等を目指すとともに最新の研究成果を世界に発信しています。臨床研究においても、手術ナビゲーターなどの医療機器の開発、光医学の応用によりリンパ流動態の研究など最先端の研究が行われています。さらにゲノム関連の研究、こどものこころの発達研究も注目されていて、これらの研究は国の支援を受けて、地域産学官連携の研究拠点も学内に構築しているところです。また、創薬から臨床応用の過程で必須な、第Ⅰ相から第Ⅳ相試験までの臨床試験を行うことができる探索的臨床研究センターを設置し、創薬分野にも貢献しています。

医学部附属病院は、浜松市周辺の地域医療に貢献すべく開放型共同診療を行う、地域に根ざした病院です。病棟は33年目に新築され、平成21年12月に新棟へ移転しました。これから外来棟を改修し、平成25年に改修工事を終了する予定です。本院は特定機能病院であり、最後の砦的な病院を目指し、高度な医療のできる診断・治療医療機器および技術、人材を備えています。

静岡県の人口は375万人超で、東海道沿線にたくさんの自治体立病院があり、医師不足が深刻となっています。医師不足に陥った原因はいろいろ考えられますが、静岡県は関東圏と愛知、京都方面からの医師派遣に依存していたこと、本学だけでの供給・派遣ではとても間に合わなかったこと、静岡県内に卒後定着した医師が少なかったことなども一因です。本学の卒業生は約半数が静岡県内に定着していますが、それでも医師不足は深刻な状態にあり、今後県内にたくさんの医師たちが定着するよう努力しています。臨床研修病院として地域の中核的役割を担い、今後さらに県内に定着する医師を増やし、地域に貢献することを目指して参りますので、本学に対し温かいご指導とご支援をお願い申し上げます。



学 長
中村 達

■建学の理念等

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創性に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

医学科の教育目標

1. 医学における基礎的知識・技術を習得し、問題解決能力を身につける。
2. 自己評価能力と自学自習の態度・習慣を身につける。
3. 医学にたずさわるのに必要不可欠な研究心を養成する。
4. 国際的に活動するための豊かな教養を培う。
5. 医師として好ましい人間性を養う。

看護学科の教育目標

1. 人間への温かい関心と、生命の尊厳を尊重する倫理観をもつ豊かな人間性を養う。
2. 他者との良好な関係をつくる能力、他者理解・自己理解を深める姿勢を養う。
3. 看護専門職としての基本的知識・技術を習得し、根拠に基づいて思考する習慣と問題解決能力を身につける。
4. 高度・専門医療への対応の基礎となる基本的な看護実践能力を身につける。
5. 看護に対する社会的ニーズを認識し、保健・医療・福祉チームの一員として、国内外を問わず広く地域社会に貢献できる能力を身につける。
6. 専門的職業人として、研究的視点を持ち、生涯にわたり学習を継続する姿勢を身につける。

医学系研究科（博士課程）の教育目標

1. 医学・医療に関する高度の専門的知識と技術に基づく研究能力を身につける。
2. 優れた学術論文の作成能力と表現力を身につける。
3. 自主的かつ独創的な問題発見能力、及び問題解決能力を身につけ、生涯にわたり自立して学問を探究する姿勢を養う。
4. 研究者としての厳しさと誠実な人間性を養う。
5. 国際的な視野を持ち、豊かな知性と教養を身につける。

医学系研究科（修士課程）の教育目標

1. 特定の専門分野での看護実践の場における研究活動を通じて、高度な専門的知識と技術の向上・開発を図る能力を修得する。
2. 看護学教育と実践活動の場において、専門性の高い教育的機能を果たす能力を修得する。
3. 看護実践を通じて、専門性と倫理観に基づくケア提供、研究を行える能力を修得する。
4. 看護の専門領域にかかわる新しい課題にチャレンジできる高度な能力を修得する。
5. 文化的、社会的背景を考慮して健康問題をとらえ、国際的に活躍できる高度な能力を修得する。

沿革

昭和48年	9月10日	静岡大学国立医科大学創設準備室設置
昭和49年	6月 7日	浜松医科大学設置 医学部医学科、附属図書館及び事務局設置 医学部に8講座（解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、微生物学、内科学第一、外科学第一、放射線医学）、9学科目（倫理学、心理学、法学、数学、物理学、化学、生物学、英語、ドイツ語）開設
	7月 4日	医学部医学科第1回入学式
昭和50年	3月29日	講義実習棟竣工
	4月 1日	附属病院創設準備室設置 医学部に7講座（解剖学第二、生理学第二、病理学第二、薬理学、内科学第二、産婦人科学、小児科学）開設
昭和51年	3月25日	福利施設棟竣工
	3月27日	体育館竣工
	5月10日	医学部に7講座（衛生学、公衆衛生学、寄生虫学、法医学、外科学第二、整形外科学、眼科学）開設
	12月11日	第1回解剖体慰霊祭
昭和52年	3月25日	基礎臨床研究棟竣工
	3月30日	RⅠ動物実験施設、管理棟及び臨床講義棟竣工
	4月18日	医学部附属病院設置 医学部に6講座（内科学第三、精神神経医学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、麻酔学）開設 医学部附属病院に15診療科（第一内科、第二内科、精神科神経科、小児科、第一外科、第二外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産科婦人科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科）設置 医学部附属病院中央診療施設等（検査部、放射線部、手術部、材料部）設置 薬剤部・看護部設置
	11月28日	医学部附属病院の一部が竣工し、外来診療を開始
	12月20日	医学部附属病院竣工
昭和53年	3月30日	廃棄物廃水処理施設竣工
	4月 1日	医学部に2講座（生化学第二、脳神経外科学）開設 医学部附属病院に2診療科（第三内科、脳神経外科）設置 廃棄物廃水処理センター設置
	5月25日	慰霊塔除幕式
	11月15日	附属図書館竣工
昭和54年	3月30日	プール及び福利厚生施設 職員会館（半田山会館）竣工
	4月 1日	医学部附属動物実験施設設置
	12月 8日	武道館竣工
昭和55年	3月26日	医学部医学科第1回卒業式

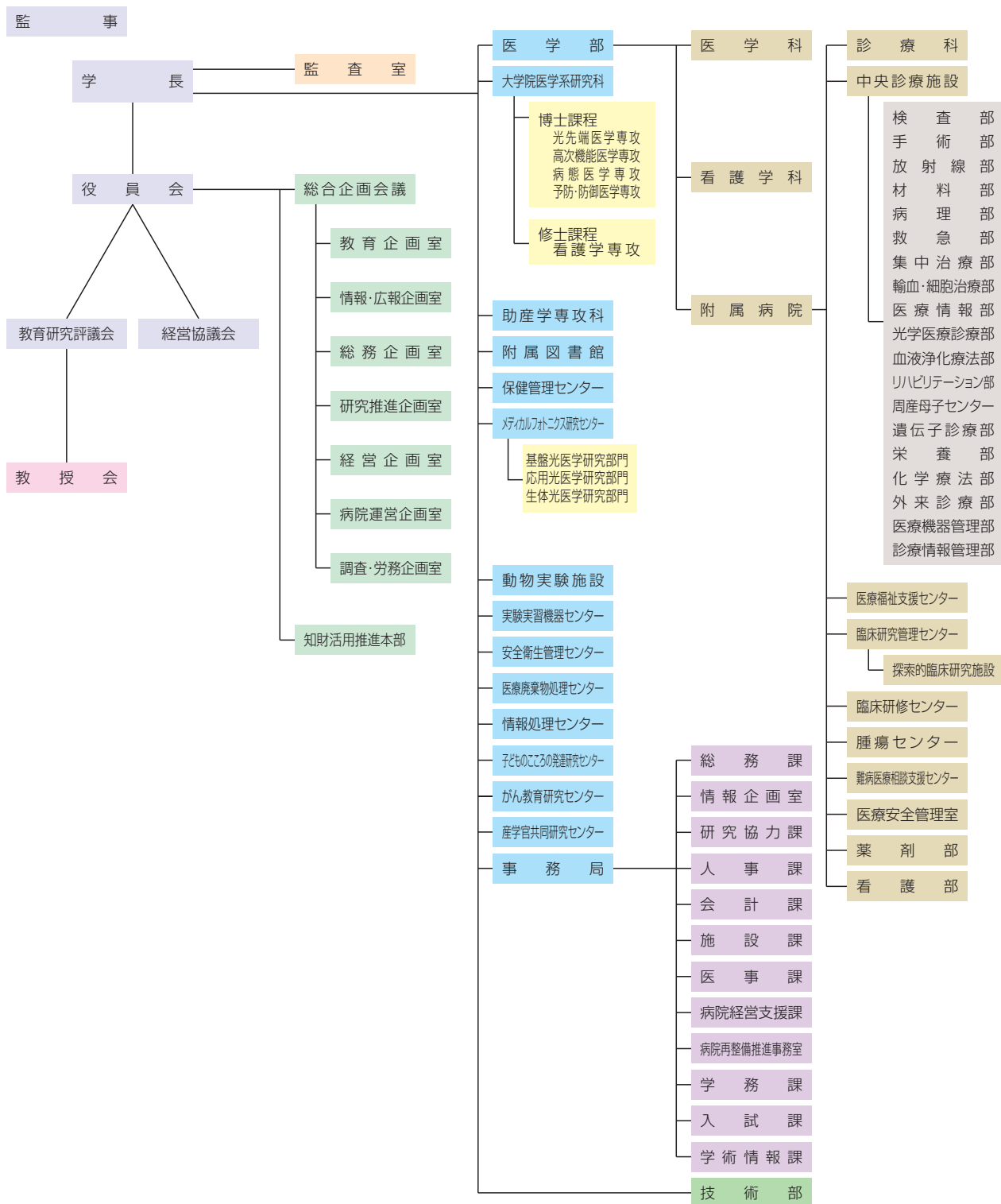
昭和55年	4月 1日	大学院医学研究科博士課程(形態系専攻、生理系専攻、生化系専攻、生態系専攻)設置
	4月26日	大学院医学研究科博士課程第1回入学式
昭和56年	4月 1日	医学部附属実験実習機器センター設置
昭和59年	2月18日	開学10周年記念式典
	3月26日	大学院医学研究科博士課程第1回学位記授与式
	4月 1日	医学部に講座(歯科口腔外科学)開設
昭和60年	5月17日	保健管理センター設置
昭和62年	12月 5日	医学部附属病院開院10周年記念式典
昭和63年	5月25日	医学部附属病院中央診療施設等(病理部)設置
	10月20日	基礎・臨床研究棟別館竣工
平成元年	6月28日	医学部に講座(臨床検査医学)開設
平成2年	3月20日	MRI-CT装置棟竣工
	6月 8日	医学部に学科目(日本語・日本事情)開設 麻酔学講座を麻酔・蘇生学講座に名称変更 医学部附属病院麻酔科を麻酔科蘇生科に名称変更
平成3年	4月12日	光量子医学研究センター設置 医学部附属病院中央診療施設等(救急部)設置
平成5年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等(集中治療部)設置
	6月17日	廃棄物廃水処理センターを医療廃棄物処理センターに名称変更
	10月 1日	医学部に臨床薬理学講座(寄附講座)開設
平成6年	5月20日	医学部附属病院中央診療施設等(輸血部)設置
	6月 7日	開学20周年記念式典
平成7年	4月 1日	医学部看護学科設置 医学部に学科目(生命科学)開設
	4月25日	医学部看護学科第1回入学式
	6月 7日	医学部看護学科設置記念式典
	9月27日	情報処理センター設置
平成8年	3月25日	国際交流会館竣工
	4月 1日	医学部看護学科に3講座(基礎看護学、臨床看護学、地域看護学)開設 医学部に学科目(情報科学)開設 医学部附属病院中央診療施設等(医療情報部)設置
平成9年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等(光学医療診療部)設置
	7月28日	看護学科棟の一部が竣工
	11月27日	医学部附属病院開院20周年記念式典
平成10年	2月16日	看護学科棟竣工
	3月30日	弓道場竣工
	4月 1日	医学部医学科に講座(臨床薬理学)開設

平成10年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等（血液浄化療法部）設置 医学部附属病院に2診療科（循環器科、心臓血管外科）設置
平成11年	3月26日 4月 1日 4月26日 12月24日	医学部看護学科第1回学位記授与式 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に名称変更し、修士課程（看護学専攻）設置 医学部附属病院中央診療施設等（リハビリテーション部）設置 大学院医学系研究科修士課程第1回入学式 光量子医学研究センター竣工
平成12年	4月 1日	事務局に教務部入学主幹及び総務部情報企画室設置
平成13年	3月27日 4月 1日 12月18日	大学院医学系研究科修士課程第1回学位記授与式 医学部附属病院中央診療施設等（治験管理センター）設置 光量子医学研究センター改組 探索的臨床研究施設竣工
平成14年	4月 1日 9月 1日 10月 1日 11月 1日	医学部医学科に講座（救急医学）開設 医学部附属病院中央診療施設等（周産母子センター）設置 医学部附属病院中央診療施設等（遺伝子診療部）設置 医学部医学科2年次後期編入学第1回入学式 医学部附属病院に診療科（リハビリテーション科）設置
平成15年	3月 1日 4月 1日 9月 3日	医学部附属病院新生児特定集中治療室（NICU）開設 医学部附属病院中央診療施設等（医療福祉支援センター）設置 21世紀COEプログラムに「メディカルフォトニクス」が採択
平成16年	4月 1日 11月13日	国立大学法人浜松医科大学設立 大学院医学系研究科博士課程の専攻を、光先端医学、高次機能医学、病態医学及び予防・防御医学に変更 医学部附属病院中央診療施設の「医療福祉支援センター」及び「治験管理センター」を医学部附属病院の「医療福祉支援センター」及び「臨床研究管理センター」に改組 医学部附属病院に臨床研修センター及び医療安全管理室設置 事務局総務部の「庶務課」を「総務課」と「人事課」に改組し、業務部の「医事課」を「医療サービス課」に、「教務部」を「学務部」に改め、業務部に「病院管理室」及び入学主幹を廃し、「入試課」を設置 開学30周年記念式典
平成17年	4月 1日	医学部一般教育等の12学科目（倫理学、心理学、歴史学、社会学、数学、物理学、化学、生物学、英語、日本語・日本事情、生命科学、情報科学）を「総合人間科学講座」に改組 医学部医学科の「解剖学第一講座」及び「解剖学第二講座」を「解剖学講座」に改組 医学部医学科の「衛生学講座」及び「公衆衛生学講座」を「健康社会医学講座」に改組

平成17年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設（栄養部）設置 事務局の「業務部」を「病院部」に改め、「施設課」を総務部に編入
	5月25日	医学部附属病院中央診療施設（化学療法部）設置 医学部附属病院に外来化学療法センター設置
	7月 1日	医学部附属病院新生児強化治療室（GCU）開設
平成18年	4月 1日	医学部医学科の「微生物学講座」及び「寄生虫学講座」を「感染症学講座」に改組 子どものこころの発達研究センター設置 医学部附属病院に診療科（心療内科）設置 医学部附属病院中央診療施設（外来診療部）設置
	7月 1日	監査室設置 総務部総務課に「研究協力室」設置
	10月 1日	医学部附属病院に診療科（臨床薬理内科）設置 医学部附属病院に腫瘍センター設置
平成19年	1月 1日	分子イメージング先端研究センター設置 事務局病院部に「病院再整備推進事務局」設置
	1月23日	医学部附属病院新病棟着工
	2月 1日	医学部附属病院に診療科（形成外科）設置
	4月 1日	医学部に分子診断学講座（寄附講座）開設 医学部附属病院中央診療施設（輸血部）を（輸血・細胞治療部）に改める 医学部附属病院に難病医療相談支援センター設置
	5月 7日	医大保育所「きらり」開所
	7月 1日	医学部附属病院中央診療施設（医療機器管理部）設置
	10月 1日	がん教育研究センター設置 医学部に地域医療学講座（寄附講座）開設
	11月28日	医学部附属病院開院30周年記念式典
平成20年	1月 1日	分子イメージング先端研究センターに「分子解剖学研究部門」開設
	4月 1日	助産学専攻科設置
平成21年	4月 1日	大阪大学、金沢大学、浜松医科大学連合小児発達学研究科に参加 事務局部制を廃止し、研究協力課、病院経営支援課を設置
	6月29日	医学部附属病院新病棟竣工
平成22年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設（診療情報管理部）設置
	5月 1日	医学部に児童青年期精神医学講座（寄附講座）開設
平成23年	4月 1日	「光量子医学研究センター」と「分子イメージング先端研究センター」を改組・統合し、「メディカルフォトンクス研究センター」を設置 産学官共同研究センター（PET-CT棟、サイクロトロン棟）設置 医学部に臨床医学教育学講座（寄附講座）開設

組織

国立大学法人浜松医科大学



■ 役職員等

歴 代 学 長

吉利 和	昭和49年 6 月 7 日～昭和61年 3 月31日
中井準之助	昭和61年 4 月 1 日～平成 2 年 3 月31日
川島 吉良	平成 2 年 5 月 1 日～平成 8 年 4 月30日
山崎 昇	平成 8 年 5 月 1 日～平成12年 4 月30日
寺尾 俊彦	平成12年 5 月 1 日～平成22年 3 月31日
中村 達	平成22年 4 月 1 日～

学 長	中村 達
理 事	小出 幸夫 (教育・国際交流担当) 鈴木 修 (評価・労務・安全管理担当) 瀧川 雅浩 (財務・病院担当) 晝馬 明 (経営・産学連携担当) (非常勤)
監 事	山崎 勝康 津田 紘 (非常勤)
副学長	中原大一郎 (情報・広報担当) 蓑島 伸生 (研究・社会貢献担当) 高橋 清夫 (総務担当) (附属図書館長) (メディカルフォトニクス研究センター長) (事務局長)
経営協議会	中村 達 (学長) 鈴木 修 (理事) 瀧川 雅浩 (理事) 晝馬 明 (理事) 高橋 清夫 (副学長) 伊藤 修二 (ヤマハ㈱特別顧問) 猿田 享男 (医療研修推進財団理事長) 鈴木 勝彦 (静岡県医師会長) 永井 美之 (理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター長) 御室健一郎 (浜松信用金庫理事長) 村本 淳子 (三重県立看護大学長)
教育研究評議会	中村 達 (学長) 小出 幸夫 (理事) 鈴木 修 (理事) 瀧川 雅浩 (理事) 中原大一郎 (附属図書館長) 林 秀晴 (保健管理センター長) 蓑島 伸生 (メディカルフォトニクス研究センター長) 梅村 和夫 (動物実験施設長) 浦野 哲盟 (実験実習機器センター長) 針山 孝彦 (生物学・教授) 福田 敦夫 (生理学第一・教授) 大園誠一郎 (泌尿器科学・教授) 阪原 晴海 (放射線医学・教授) 佐藤 重仁 (麻酔・蘇生学・教授) 永田 年 (基礎看護学・教授)

医学部

医学科 基礎講座（代表教員）

総合人間科学講座・倫理学	教授	森下	直貴
総合人間科学講座・心理学	教授	中原	大一郎
総合人間科学講座・人類学	教授	佐藤	弘明
総合人間科学講座・数学	教授	野田	明男
総合人間科学講座・物理学	教授	笹倉	裕之
総合人間科学講座・化学	教授	藤本	忠蔵
総合人間科学講座・生物学	教授	針山	孝彦
総合人間科学講座・英語	教授	遠藤	幸英
総合人間科学講座・日本語・日本事情	教授	佐藤	清昭
総合人間科学講座	教授	谷	重喜
解剖学講座（神経機能学）	教授	佐藤	康二
解剖学講座（細胞生物学）	教授	瀬藤	光利
生理学第一講座	教授	福田	敦夫
生理学第二講座	教授	浦野	哲盟
生化学第一講座	教授	北川	雅敏
生化学第二講座	教授	三浦	直行
病理学第一講座	教授	相村	春彦
病理学第二講座	教授	岩下	寿秀
薬理学講座	教授	梅村	和夫
感染症学講座（生体防御）	准教授	辻村	邦夫
感染症学講座（ウイルス学・寄生虫学）	教授	鈴木	哲朗
健康社会医学講座	教授	尾島	俊之
法医学講座	教授	渡部	加奈子

医学科 臨床講座（代表教員）

内科学第一講座	教授	宮嶋	裕明
内科学第二講座	教授	中村	浩淑
内科学第三講座	教授	林	秀晴
精神神経医学講座	教授	森	則夫
外科学第一講座	教授	椎谷	紀彦
外科学第二講座	教授	今野	弘之
脳神経外科学講座	教授	難波	宏樹
整形外科科学講座	教授	松山	幸弘
皮膚科学講座	教授	戸倉	新樹
泌尿器科学講座	教授	大園	誠一郎
眼科学講座	教授	堀田	喜裕
耳鼻咽喉科学講座	教授	峯田	周幸
放射線医学講座	教授	阪原	晴海
麻酔・蘇生学講座	教授	佐藤	重仁
産婦人科学講座	教授	金山	尚裕
小児科学講座	教授	緒方	勤
歯科口腔外科学講座	准教授	加藤	文度
臨床検査医学講座	教授	前川	真人
臨床薬理学講座	教授	渡邊	裕司
救急医学講座	教授	青木	克憲
分子診断学講座（寄附講座）	特任教授	金岡	繁
地域医療学講座（寄附講座）	特任教授	山岡	泰治
児童青年期精神医学講座（寄附講座）	特任教授	杉山	登志郎
臨床医学教育学講座（寄附講座）			

看護学科（代表教員）

基礎看護学講座	教授	渡邊	泰秀
基礎看護学講座	教授	三浦	克敏
基礎看護学講座	教授	永田	年
基礎看護学講座	教授	加藤	和子
臨床看護学講座	教授	野澤	明子
臨床看護学講座	教授	大見	サキエ
地域看護学講座	教授	巽	あさみ
地域看護学講座	教授	鈴木	みづえ

助産学専攻科（代表教員）

准教授 久保田 君枝

附属図書館

館長 中原 大一郎

保健管理センター

センター長 林 秀晴

メディカルフォトリクス研究センター

センター長 蓑島 伸生
 基盤光医学研究部門
 教授 寺川 進
 教授 蓑島 伸生
 教授 瀬藤 光利
 応用光医学研究部門
 教授 間賀田 泰寛
 特任教授 岡崎 茂俊
 生体光医学研究部門
 教授 尾内 康臣

動物実験施設

施設長 梅村 和夫

実験実習機器センター

センター長 浦野 哲盟

安全衛生管理センター

センター長 鈴木 修

医療廃棄物処理センター

センター長 藤本 忠蔵

情報処理センター

センター長 谷 重喜

子どものこころの発達研究センター

センター長 森 則夫
 教授 武井 教使
 特任教授 鳥塚 達郎

がん教育研究センター

センター長 大西 一功

産学官共同研究センター

センター長 山本 清二

医学部附属病院

病 院 長	瀧川 雅浩	副病院長	〔運営・管理担当〕 小林 利彦	〔教育・研修担当〕 阪原 晴海	〔リスクマネジメント担当〕 今野 弘之	〔患者サービス担当〕 桑原 弓枝
診 療 科						
科 長						
総 合 内 科	瀧川 雅浩					
第一内科診療科群	宮嶋 裕明 教授 杉本 健 講師 藤垣 嘉秀 准教授	第二内科診療科群	中村 浩淑 教授 千田 金吾 准教授	第三内科診療科群	林 秀晴 教授 大西 一功 教授 小川 法良 講師	
神 経 内 科		内 分 泌 ・ 代 謝 内 科		循 環 器 内 科		
消 化 器 内 科		肝 臓 内 科		血 液 内 科		
腎 臓 内 科		呼 吸 器 内 科		免 疫 ・ リウマチ内科		
精 神 科 神 経 科	森 則夫 教授	第一外科診療科群	椎谷 紀彦 教授 船井 和仁 特任講師 和田 英俊 講師	第二外科診療科群	今野 弘之 教授 中村 利夫 准教授 坂口 孝宣 講師 海野 直樹 講師	
小 児 科	緒方 勤 教授	心 臓 血 管 外 科		上 部 消 化 管 外 科		
		乳 腺 外 科		下 部 消 化 管 外 科		
		呼 吸 器 外 科		肝 ・ 胆 ・ 膵外科		
		小 児 外 科		血 管 外 科		
		一 般 外 科 (内視鏡外科を含む)				
脳 神 経 外 科	難波 宏樹 教授	整 形 外 科	松山 幸弘 教授	皮 膚 科	戸倉 新樹 教授	
泌 尿 器 科	大園誠一郎 教授	眼 科	堀田 喜裕 教授	耳 鼻 咽 喉 科	峯田 周幸 教授	
産 科 婦 人 科	金山 尚裕 教授	放 射 線 科	阪原 晴海 教授	麻 酔 科 蘇 生 科	佐藤 重仁 教授	
歯 科 口 腔 外 科	瀧川 雅浩	リハビリテーション科	美津島 隆 准教授	形 成 外 科	深水 秀一 准教授	
臨 床 薬 理 内 科	渡邊 裕司 教授					
中央診療施設						
部 長						
検 査 部	前川 真人 教授	手 術 部	白石 義人 特任教授	放 射 線 部	阪原 晴海 教授	
材 料 部	椎谷 紀彦 教授	病 理 部	馬場 聡 准教授	救 急 部	青木 克憲 教授	
集 中 治 療 部	佐藤 重仁 教授	輸 血 ・ 細 胞 治 療 部	竹下 明裕 准教授	医 療 情 報 部	木村 通男 教授	
光 学 医 療 診 療 部	今野 弘之 教授	血 液 浄 化 療 法 部	加藤 明彦 准教授	リハビリテーション部	美津島 隆 准教授	
周産母子センター	金山 尚裕 教授	遺 伝 子 診 療 部	前川 真人 教授	栄 養 部	金山 尚裕 教授	
化 学 療 法 部	大西 一功 教授	外 来 診 療 部	大園誠一郎 教授	医 療 機 器 管 理 部	峯田 周幸 教授	
診 療 情 報 管 理 部	木村 通男 教授					
医療福祉支援センター		臨床研究管理センター		臨床研修センター		
センター長	小林 利彦 特任教授	センター長	渡邊 裕司 教授	センター長	阪原 晴海 教授	
腫瘍センター		難病医療相談支援センター		医療安全管理室		
センター長	大西 一功 教授	センター長	宮嶋 裕明 教授	室 長	今野 弘之 教授	
薬 剤 部		看 護 部				
部 長	川上 純一 教授	部 長	桑原 弓枝			

監 査 室

監査室長

葛山 雅弘

事 務 局

事務局長

高橋 清夫

次長（総務）

島田 健治

次長（病院）

中西 治幸

次長（教育・国際交流）

五十嵐利光

総務課長

田中 晃人

情報企画室長〔併〕

田中 晃人

研究協力課長

伊藤 邦司

人事課長

小林 照夫

会計課長

有田 孝一

施設課長

岩佐 智

医事課長

柘植 智司

病院経営支援課長

鈴木 康正

病院再整備推進事務室長

山下 雄二

学務課長

栗田 清治

入試課長

小粥 基成

学術情報課長

加藤 晃一



職員、学生等

職員数

区分	職員												計
	事務局等	医学部	附属病院	保健管理センター	マイカルフォトニクス研究センター	動物実験施設	実験実習機器センター	医療廃棄物処理センター	子供のころの発達研究センター	がん教育研究センター	産学官共同研究センター	知財活用推進本部	
学 長	1												1
理 事	4												4
監 事	2												2
教 授		51 (3)	4 (1)		5 (1)				2 (1)				62 (6)
准教授		32	8		2	1	1		3 (3)				47 (3)
講 師		8	40 (3)	1									49 (3)
助 教		90 (14)	48 (2)		5 (1)	2			12 (12)	3 (3)		2 (2)	162 (34)
計	7	181 (17)	100 (6)	1	12 (2)	3	1		17 (16)	3 (3)		2 (2)	327 (46)
事務・技術職員等	138	14	674	1		2	14	3			1		847
合 計	145	195 (17)	774 (6)	2	12 (2)	5	15	3	17 (16)	3 (3)	1	2 (2)	1,174 (46)

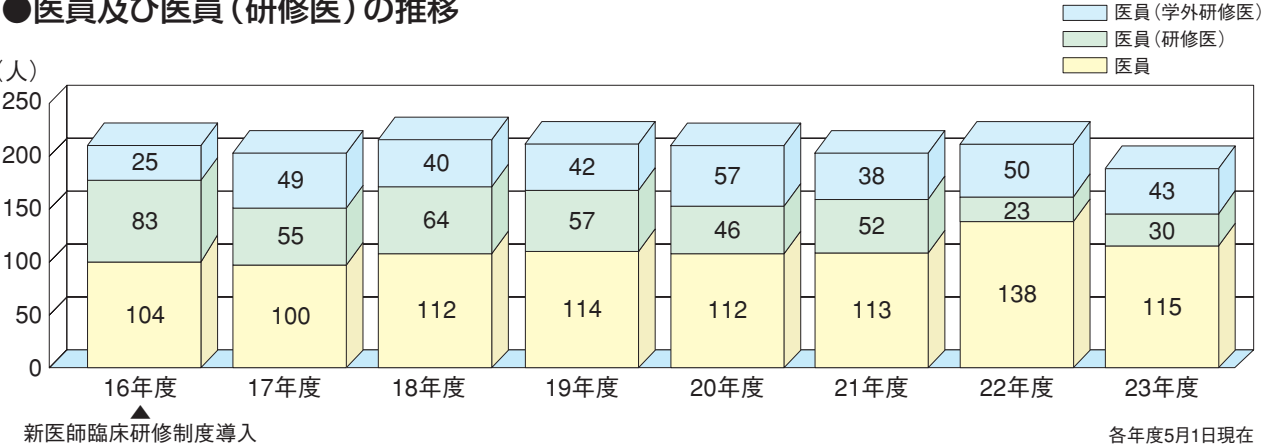
() 内は特任教員を内数で示す

平成23年5月1日現在

医 員	医 員(研修医)	計
115	30	145

平成23年5月1日現在

●医員及び医員(研修医)の推移



医学部

医学科

昭和49年(1974年)に創立されて以来、“第1に優れた臨床医と独創性に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する”という建学の理念を大学全体で追求してきました。

この建学の理念に基づき、これまで多くの優れた臨床医を養成して静岡県はもとより全国各地の医療に貢献しつつ、最先端の研究も行っています。世界でも先駆的な研究の一例を挙げると、光を利用して癌を治療したり、光を用いて人体の機能を解析する新技術の開発があり、これの実践のための特別な研究センターを設けています。

また、卒業生は臨床医、医学研究者、医学教育者のみならず、産業医、医療福祉行政者などとしても活躍しており、活動分野は多岐にわたっています。



看護学科

医療の高度化・専門化に対応できる看護、高齢者や障害者に対する看護のような地域社会に根ざしたきめ細かい看護、社会の健康づくりなど、多様な看護ニーズに対応できる看護専門職を育てることを目的としています。

本学では4年間の学部生活の間に学生が科学的考え方を身に付け、人への配慮ができる看護専門職に育つための教育を行っています。卒業生の中には本学大学院修士課程に進み、看護学教育・研究者への道を歩む者もいます。

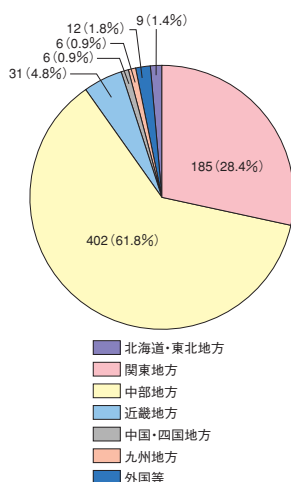
●入学定員及び現員

学 科		現 員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
医 学 科	入学定員 120(5)	男 子	77	86	77(4)	74(5)	68(2)	77(4)	459(15)
		女 子	42	36	34(1)	27(4)	26(0)	27(1)	192(6)
	収容定員 645(25)	合 計	119	122	111(5)	101(9)	94(2)	104(5)	651(21)
看 護 学 科	入学定員 70(10)	男 子	6	5	5(1)	1(0)			17(1)
		女 子	57	56	68(9)	68(10)			249(19)
	収容定員 260(20)	合 計	63	61	73(10)	69(10)			266(20)

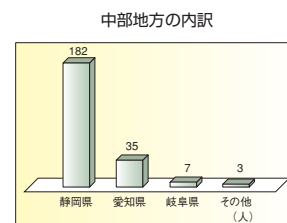
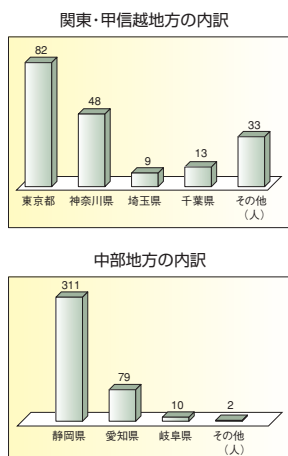
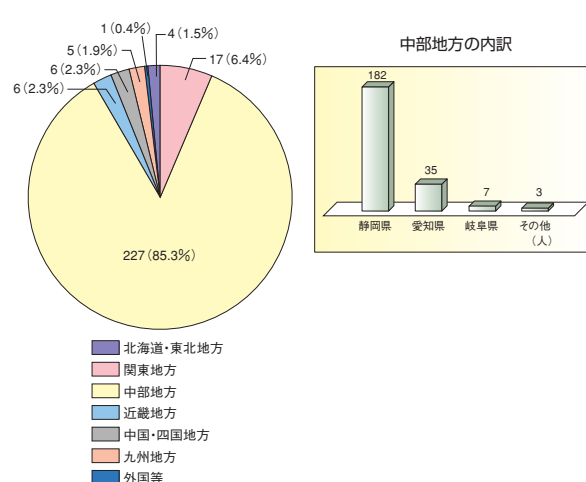
(注) (1) 医学科の()内は、第2年次後期編入学を内数で示す
(2) 看護学科の()内は、第3年次編入学を内数で示す

平成23年5月1日現在

医学科地域別在学生数割合



看護学科地域別在学生数割合

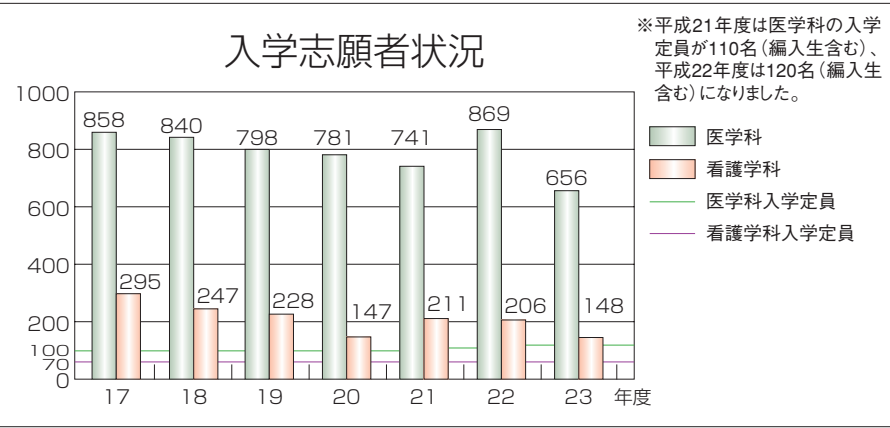


●入学志願者及び入学者数

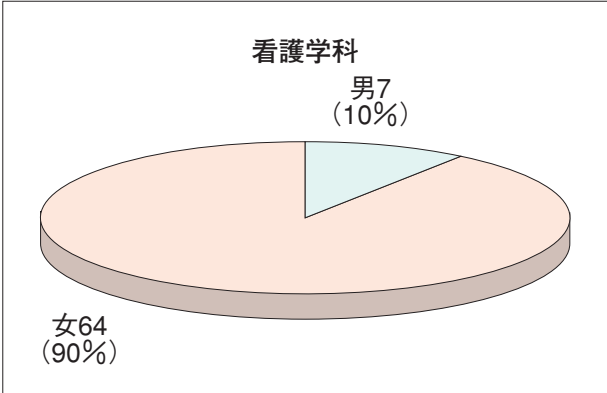
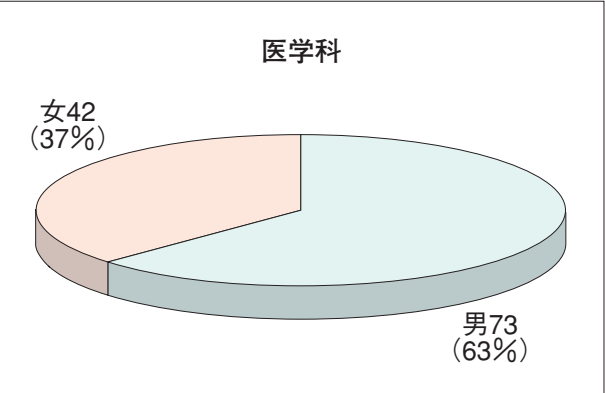
区 分	医 学 科						看 護 学 科					
	入学志願者			入 学 者			入学志願者			入 学 者		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
平成17年度	476 (74)	278 (30)	754 (104)	67 (5)	29 (0)	96 (5)	23 (0)	232 (40)	255 (40)	7 (0)	53 (11)	60 (11)
平成18年度	495 (57)	259 (29)	754 (86)	67 (2)	28 (2)	95 (4)	9 (0)	187 (51)	196 (51)	3 (0)	57 (10)	60 (10)
平成19年度	490 (62)	221 (25)	711 (87)	72 (4)	23 (1)	95 (5)	16 (1)	179 (32)	195 (33)	4 (1)	57 (9)	61 (10)
平成20年度	460 (69)	219 (33)	679 (102)	70 (5)	25 (0)	95 (5)	8 (2)	105 (32)	113 (34)	2 (1)	58 (9)	60 (10)
平成21年度	409 (88)	196 (48)	605 (136)	73 (2)	32 (3)	105 (5)	13 (1)	161 (36)	174 (37)	4 (0)	58 (10)	62 (10)
平成22年度	502 (89)	247 (31)	749 (120)	80 (4)	35 (1)	115 (5)	19 (0)	164 (23)	183 (23)	5 (0)	57 (10)	62 (10)
平成23年度	394	262	656	73	42	115	12 (1)	118 (17)	130 (18)	6 (1)	55 (9)	61 (10)

(注) (1) 医学科の()内は、第2年次後期編入学を外数で示す
(2) 看護学科の()内は、第3年次編入学を外数で示す

平成23年5月1日現在



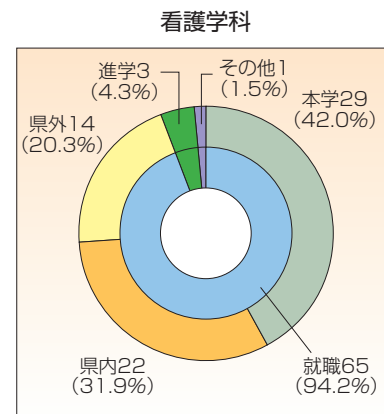
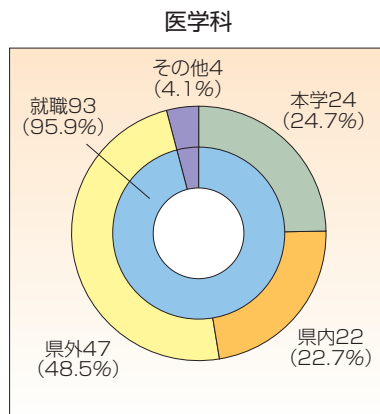
平成23年度入学生男女比率



●卒業生数

区 分	医 学 科							看護学科						
	S54~H17 年度計	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	合計	H10~H17 年度計	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	合計
男子	1,986	59	81	58	67	66	2,317	19	0	5	8	4	4	40
女子	685	27	31	39	35	31	848	526	71	65	61	65	65	853
合計	2,671	86	112	97	102	97	3,165	545	71	70	69	69	69	893

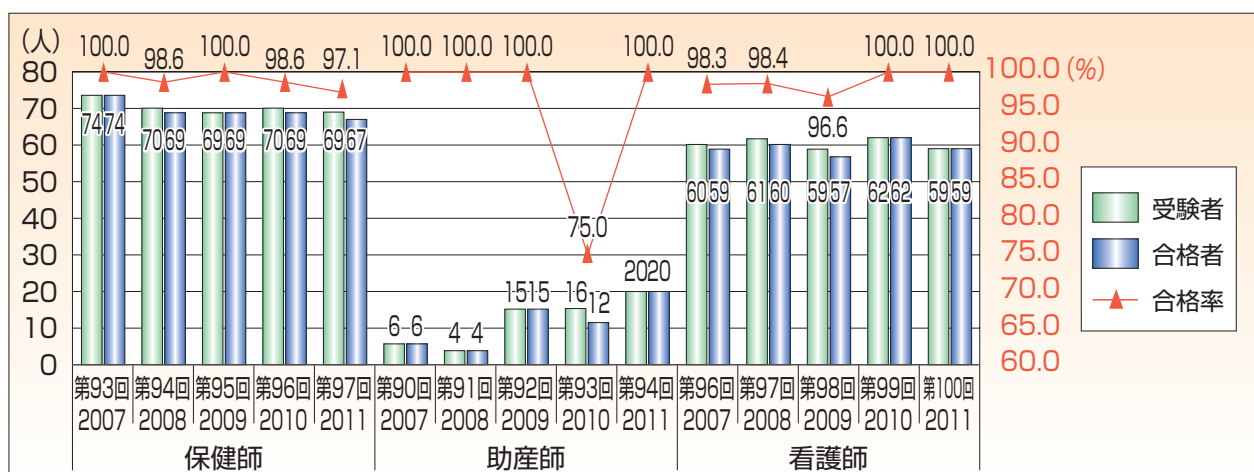
●平成22年度卒業生の進路状況



●医師国家試験合格状況

区 分	新 卒			既 卒			総 数			全国 順位
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	
第101回 2007	86	85	98.8	13	7	53.8	99	92	92.9	21
第102回 2008	112	109	97.3	6	4	66.7	118	113	95.8	11
第103回 2009	97	95	97.9	4	1	25.0	101	96	95.0	21
第104回 2010	102	96	94.1	4	2	50.0	106	98	92.5	24
第105回 2011	97	94	96.9	8	6	75.0	105	100	95.2	8

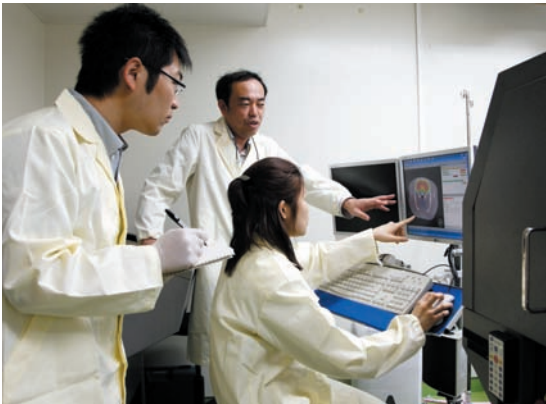
●保健師・助産師・看護師国家試験合格状況(既卒者を含む)



大学院医学系研究科

博士課程

21世紀に想定される知識基盤社会を支える人材としての「優れた研究能力を持つ創造性豊かな医学研究者」と「高度な研究能力を備え、その成果を臨床現場で活かせる臨床医学者」の養成、及びこれによる本学の研究の一層の活性化が本学大学院医学系研究科博士課程の目的です。そのため、博士課程に「研究者養成コース」と「研究能力を備えた臨床医養成コース」を設置しています。



修士課程



医療技術の高度化、人口の高齢化に伴う社会的ニーズの増大及び生活の質を重視する価値観の広がりなどから、人々は質の高いケアに、より関心を示すようになってきました。

こうした社会のニーズに応え、看護の質を高めるためには、学部教育の上に更に高度の専門性と実践能力を備えた職業人を育成するための大学院教育が急務です。

このことから、本研究科看護学専攻では「看護学に関する基礎能力を基盤に、特定の分野において高度の看護実践能力をもち、専門性と倫理観に基づくケア提供、研究を行うことができる高度専門職業人としての看護職の育成」を主な目的とします。

併せて、看護学科の発展の基礎となる健康科学についても、看護実践者の立場から研究を行います。

入学定員及び現員

修士課程

区 分		現 員	1年	2年	計
看護学専攻	入学定員 16	男 子	1	4	5
	収容定員 32	女 子	15	30	45
		合 計	16	34(13)	50

()内は平成21年入学の長期履修者を内数で示す

平成23年5月1日現在

博士課程

区 分		現 員	1年	2年	3年	4年	計
光先端医学	入学定員 11	男 子	8 (1)	11 (2)	6	8	33
	収容定員 44	女 子	6	7 (6)	7	0	20
		合 計	14	18	13	8	53
高次機能医学	入学定員 5	男 子	3 (1)	6 (3)	3	3 (1)	15
	収容定員 20	女 子	1 (1)	1	0	4	6
		合 計	4	7	3	7	21
病態医学	入学定員 8	男 子	9	8	9	17 (1)	43
	収容定員 32	女 子	4 (1)	2	3 (1)	4	13
		合 計	13	10	12	21	56
予防・防御医学	入学定員 6	男 子	2	0	2	1	5
	収容定員 24	女 子	3	0	2	4	9
		合 計	5	0	4	5	14

()内は10月入学を内数で示す

平成23年5月1日現在

●入学者数

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
博士課程（男子）	28	30	25	21	21	22	21
〃（女子）	11	7	8	10	12	4	11
修士課程（男子）	3	0	0	1	2	3	1
〃（女子）	20	18	16	14	15	14	15

平成23年5月1日現在

●学位授与者数

	S58～H16 年度計	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
博士課程（医学）	445	26	23	21	35	28	27
論文博士（医学）	400	27	13	14	9	14	8
修士課程（看護学）	66	14	7	17	15	9	15

平成23年5月1日現在

●研究生数

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
男 子	41	30	33	27	34	26	27
女 子	5	7	8	10	6	9	11

平成23年5月1日現在

助産学専攻科

地域の周産期医療の充実、母子保健の発展に貢献できる人材の育成をめざし、平成20年4月に助産学専攻科を開設しました。「生涯にわたる女性の健康と性に関する権利」を基盤とした1年間の教育により、質の高い助産技術と実践能力を身につけた助産師を育成します。

●入学定員及び現員

区 分	定 員		現 員
	入学定員	収容定員	1年
助産学専攻科	16	16	16

平成23年5月1日現在

●平成22年度修了者の進路状況

修了者	就 職	
	県内	県外
16	8	8



篤志家による献体登録状況

●解剖献体数

年 度	S49～H18 年度計	19年度	20年度	21年度	22年度	合計
献体数	1,626	50	40	39	49	1,804

平成23年3月31日現在

●献体登録状況

名 称	会 員 数		
	生 存	物 故	計
白 菊 会	914	1,119	2,033
新 天 会	201	375	576
計	1,115	1,494	2,609

平成23年3月31日現在

■学内共同教育研究施設

■保健管理センター TEL (053) 435-2158

センター長 林 秀晴

学生・職員の健康の保持増進を図ることにより、学校教育や職場活動の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的として、昭和60年に設置された。健康診断と事後措置及び健康相談、保健管理に関する調査・研究を行っている。また、医科大学という特殊性から感染対策（B型肝炎、ウイルス感染症等）にも力を入れている。心の健康の保持増進については、学内関係部署や精神科等と連携しながら支援にあたっている。



■メディカルフォトリクス研究センター TEL (053) 435-2390

センター長 蓑島 伸生 副センター長 間賀田 泰寛

〔基盤光医学研究部門〕光イメージング研究室、光ゲノム医学研究室、システム分子解剖学研究室；〔応用光医学研究部門〕分子病態イメージング研究室、医学分光応用寄附研究室（浜松ホトリクス（株）寄附）；〔生体光医学研究部門〕生体機能イメージング研究室

旧光量子医学研究センターと旧分子イメージング先端研究センターの統合により、平成23年4月1日に設置された。ヒトとモデル動物の両方を対象とし、光と電磁波を応用する多様な医学研究を行っている。細胞から個体までの全階層での光・分子イメージングによる生命現象の探究、イメージング法を活用した診断技術と臨床診断用標識薬剤の開発、オミックス手法を活用した疾患原因追究、光による腫瘍等の治療法の開発・改良等の先端的研究が進行中である。



■動物実験施設 TEL (053) 435-2000

施設長 梅村 和夫

昭和54年に設立された動物実験施設は、医学における基礎研究としての動物実験の場と専門的な知識を研究者に提供すると共に、実験動物学の授業や卒業論文研究を通して教育にも貢献している。一方、ヒト疾患モデル動物としての突然変異マウスを独自の作出方法を用いて開発し、研究者へ提供することにより実験動物科学としての一分野を推進している。最近ではコモンマーマウスセットの育種および繁殖に力を注いでおり学内利用の推進を図っている。

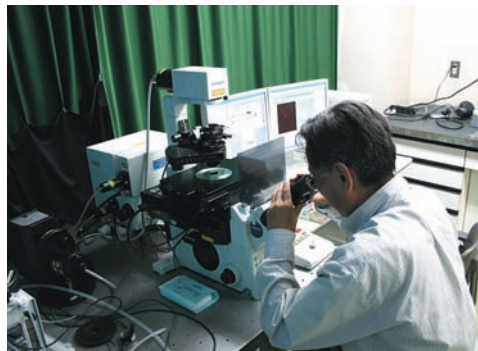


■実験実習機器センター TEL (053) 435-2300

センター長 浦野 哲盟

本学の創立当初の方針に基づき昭和51年から研究棟各階に共同実験室を設置した。昭和56年4月に省令施設の医学部附属実験実習機器センターとして、RI施設を統合した共同利用施設となった。

平成16年4月法人化に伴い、大学附属実験実習機器センターに改組。日進月歩の生命科学の研究レベルに対応した機器の運用を利用者と協同して効率的に行っている。専門知識と技術を有した職員が全学の講座等に教育・研究支援を行っている。



■安全衛生管理センター TEL (053) 435-2187

センター長 鈴木 修

安全衛生管理センターは平成15年4月に設置され、安全衛生管理に関する全学的事項を企画・立案するとともに、教育・研究に伴って発生するおそれのある環境汚染、健康障害、事故及び災害に対する安全衛生管理の徹底を図ることを目的としている。

主な取組としては、労働安全衛生法等に基づく作業環境測定、学内巡視、局所排気装置の自主点検、薬品調査等、並びに職場における労働者の安全と健康の促進、快適な職場環境の確保などがある。



■医療廃棄物処理センター TEL (053) 435-2159

センター長 藤本 忠蔵

医療廃棄物処理センターでは、大学の研究室や病院から排出される廃水を、活性汚泥や活性炭吸着などで適正に処理し、水質の分析を行ってから下水道に放流している。また、廃溶剤、廃酸、不要になった薬剤、廃棄実験器具などを回収し、適切な処理方法により分類してから廃棄物処理業者に処分を委託している。さらに、教職員・学生に対して、大学での廃水や医療系も含む廃棄物全般について分別処理方法の指導を行っている。



■情報処理センター TEL (053) 435-2775

センター長 谷 重喜

情報処理センターは、学内のネットワーク、メールサーバ、大学HPなど各種基幹サーバ、情報系実習室、など、大学の情報基盤を提供、運営している。学内随所に無線LANのスポットが設置され、情報系実習室では教師と学生の双方向の画面提示や操作が可能となっている。今後も時代を先取りする情報基盤を提供していく。



■子どものこころの発達研究センター TEL (053) 435-2331

センター長 森 則夫

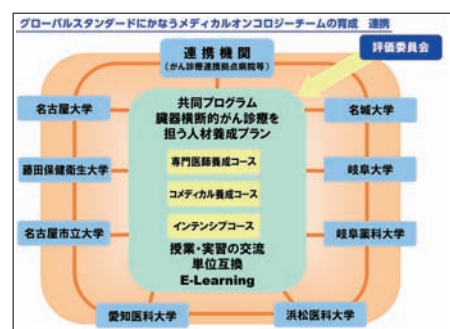
浜松医科大学、大阪大学、金沢大学に設置された「子どものこころの発達研究センター」は、平成23年度より福井大学、千葉大学の参画を得て、わが国における最高水準の研究・教育・支援機関として発展を遂げている。本センターの目的は、知る『子どものこころの危機』の背景を探り、育む『このころの危機』をもつ子どもたちを支える実践的手法を開拓するとともに、連合大学院の教育活動を通じて＜子どものこころの専門家＞を育成することにある。



■がん教育研究センター TEL (053) 435-2266

センター長 大西 一功

「がん教育研究センター」は、臓器横断的、職種横断的ながん診療を担う人材育成を行うとともに、がん領域の先端的研究を推進する事を目的として平成19年10月に設置された。本センターでは文科省の「がんプロフェッショナル養成プラン」を実施するため、本学大学院に名古屋大学等と連携して「がんプロフェッショナル養成コース」を開設し、博士課程4年間にがん臨床とがん研究の両者をバランスよく授分することによって、効率的に化学療法・緩和ケア・放射線治療に関する腫瘍専門医及び腫瘍専門薬剤師の養成を目指す。これには「臨床腫瘍コース」、「放射線医学コース」、「薬剤学コース」の3コースがある。大学院コース以外にも「インテンシブコース」があり、さらに高度な化学療法、放射線療法、薬剤学を实践を通して学ぶ事ができる。



■産学官共同研究センター TEL (053) 435-2677

センター長 山本 清二

ものづくり地域「浜松」の技術力と産業開発力に「医療・医学」のシーズ・ニーズを加え「健康・医療産業」を創出・確立していく事業である、JST地域産学官共同研究拠点整備事業「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」の中核施設として平成23年4月に設置された。サイクロトロン棟、PET-CT棟からなり、産学官共用設備を持つ。学内の研究用MRI、CT、動物用PETも管理し、小動物からヒトまでを対象としたイメージング装置を備えたユニークな施設である。



国際交流

●外国人留学生

国名	学部		大学院		計
	国費	私費	国費	私費	
中国	0	0	0	12	12
バングラデシュ	0	0	1	3	4
ポーランド	0	0	0	1	1
パキスタン	0	0	0	2	2
インド	0	0	0	2	2
ヴェトナム	0	1	0	0	1
計	0	1	1	20	22

平成23年5月1日現在

●国際交流協定・姉妹校

大学名等（国名）	締結年月日	協定等の内容
中国医科大学（中国）	1988. 4.29	姉妹校協定
慶北大学校医科大学（韓国） 慶北大学校看護大学（韓国）	1992. 9. 7 2005. 9.23	学術交流協定
上海交通大学医学院（中国） （旧：上海第二医科大学）	2000. 3.24	学術交流協定
フライブルク大学医学部 （ドイツ）	2003. 6.30	学術交流協定
河南中医学院（中国）	2003.12. 8	学術交流協定
ピアウィストク医科大学 （ポーランド）	2004. 4.19	学術交流協定
ダッカ大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
シャジャール科学技術大学 （バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
ボンゴボンデュ セイク ムシブ 医科大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
广西医科大学（中国）	2004.11.21	学術交流協定
ワルシャワ医科大学（ポーランド）	2010. 4. 1	学術交流協定
ルブリン医科大学（ポーランド）	2010. 4. 5	学術交流協定

平成23年5月1日現在

●国際交流会館の概要

区分	棟名	単身棟		世帯棟	
建築面積		206㎡		147㎡	
建物延面積		554㎡		567㎡	
室数	単身室 (14㎡)	20室	夫婦室 (40㎡)	6室	
	ミーティングルーム (19㎡)	1室	家族室 (59㎡)	4室	

第10回慶北-浜松合同医学シンポジウム
(平成22年9月 浜松)

外国人留学生見学旅行（平成22年11月 日光）



国際交流のつどい（平成23年3月）



国際交流会館

■附属図書館

浜松医科大学附属図書館は、学術情報資料の収集・保存・提供の基盤センターであり、知的創造活動の拠点として教育・研究・学習支援機能を担っています。

学生へのサービスとして、資料の提供はもとより、学習環境や癒しの空間を提供するとともに、増大する情報を的確に検索、活用できるよう情報リテラシー教育の支援も行っています。

最近では、電子ジャーナルや学内で生産される学問的成果を電子的に蓄積保存する学術機関リポジトリ、各種データベースの提供など、研究者支援のための電子図書館機能が強くなってきています。

いつでも利用できる24時間開館サービスは好評であり、土・日開館の実施、医療従事者への資料の貸出しなど、地域の利用者へのサービスにも努めています。県内の病院図書室にはネットワークを通じて文献複写の提供サービスを行っています。



開館時間
平日 9:00～20:00
土・日曜日 10:00～17:00

上記時間以外でも24時間利用できる特別利用制度があります。



貴重資料

明治11～12年に浜松医学校教官らが米国の医学書を翻訳出版した『七科約説』

●利用状況

入館者数	開館時間内				開館時間外				計			
	学内者	132,672人	学外者	1,862人	学内者	36,041人	学外者	51人	学内者	168,713人	学外者	1,913人
館外貸出冊数	図書				雑誌				視聴覚資料			
	8,955冊				613冊				202タイトル			
文献複写	受付数				依頼数				計			
	5,686件				2,555件				8,241件			

平成22年度

●蔵書数

区分	和文	欧文	計
図書	65,662冊	68,406冊	134,068冊
雑誌	1,504種	2,120種	3,624種
視聴覚資料等	1,976タイトル		

平成23年3月31日現在

●図書・雑誌受入数

区分	和文	欧文	計
図書	2,649冊	690冊	3,339冊
雑誌	210種	147種	357種
視聴覚資料等	68タイトル		
電子ジャーナル	3,420タイトル		

平成22年度



情報検索コーナー



視聴覚室



閲覧室

■地域・社会貢献

浜松医科大学では、教育、研究に次いで、社会貢献を第三の重要な事業活動と位置づけ、これに対する取り組みを進めています。医科大学としての社会貢献の第一は、附属病院における医療活動です。外来診療、入院治療、救急処置、検査等、多数の活動をしています。地域社会に対する様々な支援事業が第二の活動で、相談会や市民・中高生に対する各種講座を開催するなどしています。第三の活動として、大学の中で考案された新しい技術を実際に使えるものとして企業に移転したり、専門能力を生かして企業の事業化を支援したり、共同研究をしたりする産学連携事業があります。

●地域社会への支援事業の例

事 例	対 象	担 当
サマー・サイエンスキャンプ 「生物が見る世界～いくつもの目といくつもの世界～」	高校生	総合人間科学講座(生物学)
「環世界をもつに至った生物の理解に基づく、人や自然にやさしい経済活動の創出の可能性—なぜ今バイオメティックスが必要なのか」	企業研究者等	総合人間科学講座(生物学)
講演「学習・記憶するところと脳」	高等学校教職員	総合人間科学講座(心理学)
文化講座「ドイツ語 — 会話を中心に —」	一般市民	総合人間科学講座 (日本語・日本事情)
地域コメディカル学生・医療従事者に対する解剖学教育推進活動	コメディカル学生・医療従事者	解剖学講座
講演「暑さに負けない体力作り」	中学生、一般市民、スポーツ指導者	生理学第二講座
安全講習会	静岡県ラグビー協会所属チーム指導者並びに選手	生理学第二講座
NHK静岡放送局「教えて静岡の日本一」に出演、温泉の医学的効果について解説、説明	静岡県民	健康社会医学講座
浜松乳がん情報局 第10回・第11回市民公開講座	一般市民	外科学第一講座
視覚障害者の接し方について	小学生	眼科学講座
平成22年度磐田南高校 スーパーサイエンスハイスクールミニ大学:放射線科IVRの世界	高校生	放射線医学講座
シンポジウム「地域医療を考える」	一般市民(磐田市民)	地域医療学講座
講演会「市民の力で地域医療を育む」	一般市民(掛川市民)	地域医療学講座
浜松医科大学実験医学講座	高校生	基礎看護学講座
看護師離職防止対策事業 中間管理職研修会	静岡県内病院看護師長	地域看護学講座
メディカルイノベーションフォーラム2011	県内外企業・研究機関	光量子医学研究センター (産学官共同研究センター) 知財本部
浜松医工連携研究会・現場医師との情報交換会	県内外企業・医療機関	光量子医学研究センター (産学官共同研究センター)
医療現場見学会	県内外企業・医療機関	光量子医学研究センター (産学官共同研究センター) 知財本部
医工連携セミナー・薬事法研修会	県内企業・研究機関	光量子医学研究センター (産学官共同研究センター) 知財本部
第13回・第14回静岡県こどもの精神保健フォーラム	医療・教育・行政など児童保健に関わる職種の方	連合大学院小児発達学研究所 子どものこころの発達研究センター
第7回「子どものこころの発達研究」講演会	一般市民(16歳以上)	子どものこころの発達研究センター
地域貢献事業「医療の現場を知る」	県内高校生	手術部
講演会「東海地震、透析を守るために」	一般市民	血液浄化療法部

●産学連携活動の例

活 動 名	連携相手先	担 当
近赤外蛍光観察装置を用いた肺区域面の同定の検証	企業（浜松市）	外科学第一講座
近赤外光を用いる乳がん検査装置の臨床評価	企業（浜松市）	外科学第一講座、放射線医学講座
近赤外光検出技術を用いた四肢リンパ圧自動測定装置の開発	財団法人・企業（浜松市）	外科学第二講座
脳動脈瘤の発生・成長・破裂に関わる血流動態と血管機能の研究	企業（浜松市）	放射線医学講座、放射線部
超音波顕微鏡の臨床応用	企業（豊橋）	基礎看護学講座
低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究	企業（浜松市、豊橋市、東京都）・他大学	光量子医学研究センター
顕微鏡感覚で使え、安心・安全を提供する手術用立体内視鏡システムの試作開発と臨床応用	企業（浜松市、東京都）・他大学	光量子医学研究センター
MEDICA2010（ドイツ・デュッセルドルフ）手術ナビゲーション装置出展	企業（浜松市、東京都）	光量子医学研究センター
深部腫瘍性病変の凍結治療装置開発	企業（新潟県、東京都）	放射線部

平成22年度

●公開講座

本学教員による平成22年度公開講座「続・『がん』とともに生きる」が全5回（7月下旬～8月下旬）にわたり開催され、毎回100名以上の受講生が熱心に参加されました。

本公開講座は昭和54年から毎年開催しており、平成22年度で第32回目となりました。今後も地域の皆様のご期待に添えるような公開講座を開講し、大学の重要な使命の1つとして求められている地域社会への貢献に努めていきたいと考えています。

地域社会への支援事業



視覚障害者の接し方について



医療現場見学会

■医学部附属病院

病院の理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として
安全で良質な医療を提供する。
さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ
優れた医療人を養成する。

基本方針

1. 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療の提供
2. 社会・地域医療への貢献
3. 良質な医療人の育成
4. 高度な医療の追求
5. 健全な病院運営の確立



新病棟(病床数 613床)

●医療機関の指定状況等

法 令 等 の 名 称	許可機関名	指定等の年月日
医療法による開設許可（承認）	厚生労働省	昭和 52年 3月 29日
健康保健法による保険医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 15日
国民健康保険法による保険医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 15日
老人福祉法による医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 25日
母子保健法による妊娠乳児健康診断	静岡県ほか一部の地方自治体	昭和 53年 2月 1日
総合病院の名称承認	厚生労働省	昭和 53年 2月 17日
障害者自立支援法による自立支援医療（育成医療）	静岡県	昭和 53年 4月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療（更生医療）	静岡県	昭和 53年 4月 1日
戦傷病者特別援護法による医療機関	厚生労働省	昭和 53年 4月 1日
生活保護法による医療機関	厚生労働省	昭和 53年 5月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療（精神通院医療）	静岡県	昭和 53年 7月 1日
母子保健法による養育医療	厚生労働省	昭和 53年 7月 22日
労災補償法による医療機関	静岡県労働基準局	昭和 53年 8月 1日
原爆医療法による一般医療	静岡県	昭和 54年 2月 1日
トロトラスト沈着症に対する定期検診の指定医療機関	静岡県	昭和 54年 8月 1日
臨床修練指定病院（外国人医師・外国人歯科医師）	厚生労働省	昭和 63年 3月 29日
消防法による救急医療（救急病院）	静岡県	平成 4年 2月 12日
特定機能病院の名称承認	厚生労働省	平成 7年 3月 1日
エイズ治療の拠点病院	静岡県	平成 8年 3月 19日
地域災害拠点病院	静岡県	平成 8年 12月 26日
結核指定医療機関	厚生労働省	平成 10年 6月 2日
地域周産母子医療センターの指定	静岡県	平成 10年 10月 1日
開放型病院	厚生労働省	平成 17年 5月 1日
地域がん診療連携拠点病院	厚生労働省	平成 19年 1月 31日
難病医療拠点病院	静岡県	平成 19年 4月 1日
治験拠点医療機関	厚生労働省	平成 19年 7月 2日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	静岡県	平成 21年 3月 9日
日本医療機能評価認定病院（認定更新）	（財）日本医療機能評価機構	平成 21年 10月 2日

●探索的臨床研究施設 TEL (053) 435-2006

部長 梅村 和夫

平成14年3月に大学附属病院に併設された臨床研究専門施設として設立されました。この施設では、産学連携による創薬を目的とした臨床試験や非臨床試験（動物試験）から臨床への応用段階の探索的臨床研究を行っています。なお、本施設は、浜松ホトニクス（株）の寄附により発足しました。



●看護体系

区 分	看 護 配 置 等	届 出 年 月 日
一般病棟	特定機能病院 入院基本料 7:1	平成21年5月1日
精神病棟	特定機能病院 入院基本料 15:1 看護補助加算2(10:1)	平成18年4月1日

●先進医療承認一覧

先進医療の名称	算定開始年月日
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	平成18年11月 1日
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法（ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。）	平成19年 6月 1日
・超音波骨折治療法（四肢の骨折（治療のために手術中に行われるものを除く。）のうち、観血的手術を実施した場合に限る。）	平成20年 1月 1日
・インプラント義歯（顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。）	平成21年 1月 1日
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	平成22年12月 1日
・IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価（C型慢性肝炎のうちインターフェロン・リバビリン併用療法による効果が見込まれるものに限る。）	平成23年 3月 1日

平成23年5月1日現在

●病院の再整備計画

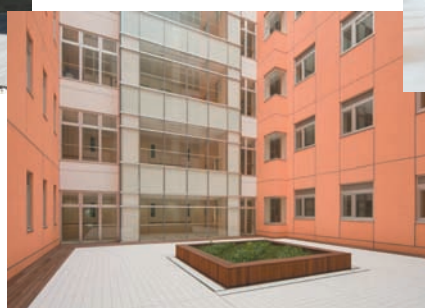
医学部附属病院の再整備は、①災害に強い病院②高度先進医療の提供③患者アメニティの充実④優れた医療人の育成⑤既存施設の有効利用⑥地域医療の中核としての役割⑦健全な病院経営を基本理念として病院づくりを行っています。

再整備計画の第1期として、平成21年6月に地上8階、地下1階建て免震構造の病棟が竣工し、手術部、集中治療部、輸血・細胞治療部、材料部、医療機器管理部、周産母子センターの拡張及びスタッフステーション、病室が充実しました。

第2期として平成23年3月から平成25年7月まで外来棟の改修工事を行います。今回の改修工事では、外来棟の耐震構造の強化、救急部、リハビリテーション部、光学医療診療部、血液浄化療法部等の拡張及び医療福祉支援センター、患者サービス部門の充実を計画しています。



中庭



光庭



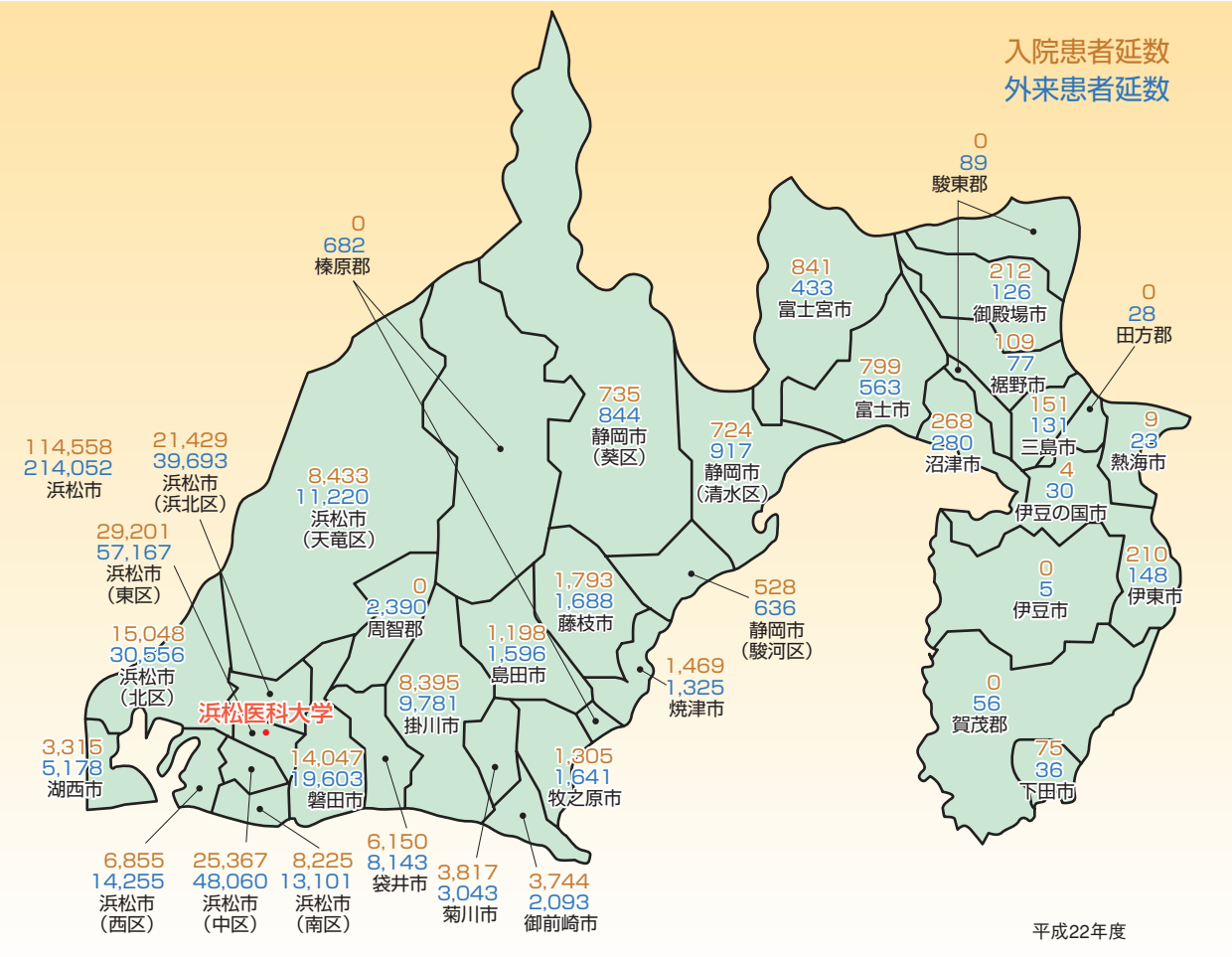
廊下風景

●診療科別患者数

診 療 科		外 来 患 者		入 院 患 者	
		延 数	1日平均数	延 数	1日平均数
内 科 共 通		—	—	—	—
第一内科	消 化 器 内 科	8,596	35.4	8,723	23.9
	腎 臓 内 科	5,811	23.9	4,371	12.0
	神 経 内 科	3,178	13.1	2,572	7.0
第二内科	内 分 泌・代 謝 内 科	22,111	91.0	4,090	11.2
	呼 吸 器 内 科	11,703	48.2	9,466	25.9
	肝 臓 内 科	8,224	33.8	3,323	9.1
第三内科	循 環 器 内 科	12,220	50.3	6,375	17.5
	血 液 内 科	5,953	24.5	10,688	29.3
	免 疫・リウマチ内科	5,396	22.2	2,707	7.4
臨 床 薬 理 内 科		780	3.2	62	0.2
精 神 科 神 経 科		18,968	78.1	10,916	29.9
小 児 科		14,024	57.7	10,397	28.5
第一外科	心 臓 血 管 外 科	2,351	9.7	7,495	20.5
	呼 吸 器 外 科	977	4.0	2,557	7.0
	小 児 外 科	427	1.8	83	0.2
	乳 腺 外 科	5,585	23.0	1,212	3.3
	一 般 外 科	1,487	6.1	2,704	7.4
第二外科	上 部 消 化 管 外 科	5,083	20.9	5,068	13.9
	下 部 消 化 管 外 科	4,545	18.7	4,595	12.6
	肝・胆・膵外科	2,747	11.3	4,306	11.8
	血 管 外 科	3,450	14.2	3,206	8.8
救 急 部		3,157	13.0	934	2.6
光 学 医 療 診 療 部		36	0.1	—	—
脳 神 経 外 科		8,255	34.0	8,051	22.1
整 形 外 科		19,473	80.1	12,671	34.7
リ ハ ビ リ 科		5,052	20.8	—	—
皮 膚 科		19,739	81.2	3,728	10.2
泌 尿 器 科		16,905	69.6	11,338	31.1
眼 科		17,815	73.3	6,282	17.2
耳 鼻 咽 喉 科		15,783	65.0	8,919	24.4
産 科 婦 人 科		15,270	62.8	10,145	27.8
放 射 線 科		7,010	28.8	3,424	9.4
麻 酔 科 蘇 生 科		3,270	13.5	206	0.6
形 成 外 科		4,669	19.2	3,469	9.5
遺 伝 子 診 療 部		—	—	—	—
歯 科 口 腔 外 科		10,159	41.8	3,175	8.7
計		290,209	1,194.3	177,258	485.6

平成22年度

●静岡県内入院・外来患者延数



●都道府県別来院状況

都 道 府 県	外来患者延数	入院患者延数	都 道 府 県	外来患者延数	入院患者延数	都 道 府 県	外来患者延数	入院患者延数
北 海 道	0	1	福 井 県	25	22	山 口 県	17	32
青 森 県	12	0	山 梨 県	28	12	徳 島 県	20	40
岩 手 県	29	111	長 野 県	193	370	香 川 県	1	6
宮 城 県	24	55	岐 阜 県	313	254	愛 媛 県	1	0
秋 田 県	1	0	静 岡 県	275,637	164,456	高 知 県	13	27
山 形 県	7	5	愛 知 県	11,804	9,642	福 岡 県	38	12
福 島 県	6	0	三 重 県	291	323	佐 賀 県	0	0
茨 城 県	34	10	滋 賀 県	37	4	長 崎 県	12	19
栃 木 県	4	0	京 都 府	44	16	熊 本 県	4	0
群 馬 県	39	40	大 阪 府	180	298	大 分 県	18	39
埼 玉 県	124	120	兵 庫 県	68	138	宮 崎 県	11	9
千 葉 県	82	188	奈 良 県	19	7	鹿 児 島 県	17	0
東 京 都	563	548	和 歌 山 県	23	134	沖 縄 県	24	20
神 奈 川 県	388	254	鳥 取 県	4	0			
新 潟 県	12	5	島 根 県	0	0			
富 山 県	13	19	岡 山 県	0	0			
石 川 県	20	0	広 島 県	9	22	計	290,209	177,258

平成22年度

臨床検査件数(院内検査)						
検査項目	一般検査	血液学的検査	生化学的検査	病理学的検査	生理機能検査	採血・採液等
件数	112,923	325,689	2,111,851	14,892	161,816	79,539
検査項目	内分泌学的検査	免疫学的検査	微生物学的検査	内視鏡検査	その他	計
件数	59,348	266,501	22,532	9,157	35,299	3,199,547

平成22年度

手術件数及び麻酔件数				
手術件数	0～999点	1,000～2,999点	3,000点以上	計
	63	304	3,888	4,255
麻酔件数	0～999点	1,000点以上	計	
	7,349	5,117	12,466	

平成22年度



X線撮影及び透視件数						
区分		X線直接撮影	X線透視	CT	MRI	計
患者数	入院	32,374	2,028	6,494	2,110	43,006
	外来	30,598	2,707	11,435	5,015	49,755
	計	62,972	4,735	17,929	7,125	92,761

平成22年度

病理解剖件数			
区分	男	女	計
死亡患者数	202	111	313
病理解剖件数	19	9	28
剖検率(%)	9.4	8.1	8.9
受託解剖件数	2	0	2

平成22年度



3T MRI装置

分娩件数								
区 分	正常出生 体重児(人)	低出生体重児(人)					巨大児(人)	計(人)
		500g未満	500g～ 1,000g未満	1,000g～ 1,500g未満	1,500g～ 2,000g未満	2,500g未満		
経 膣 分 娩	329			2	4	38	2	375
吸 引 分 娩	25					1		26
鉗 子 分 娩	2							2
予定帝王切開	94				5	21		120
緊急帝王切開	46		2	4	6	7		65
その他	2		1					3
計(総分娩件数)	498	0	3	6	15	67	2	591
死産(内数)	1		1					2

平成22年度

薬剤件数				
調 剤 薬			注 射 薬	
院内外来処方箋	院外処方箋	入院処方箋	外来注射箋	入院注射箋
6,478	149,652	81,189	47,276	141,560

平成22年度

救急患者数						
来 院 原 因 別						合 計
疾 病	傷 病				妊 娠	
	事 故			計		
	交 通	中 毒	そ の 他			
5,668	382	73	890	1,345	437	7,450

平成22年度



ドクターヘリを利用した医療活動

外部資金受入れ状況

科学研究費補助金		
研究種目	件数	交付額(単位:千円)
特定領域研究	3	22,400
新学術領域研究	4	30,589 (7,059)
基盤研究(A)	1	13,400 (4,020)
基盤研究(B)	18	94,047 (21,703)
基盤研究(C)	75	107,402 (24,785)
挑戦的萌芽研究	10	10,352
若手研究(S)	1	16,000 (4,800)
若手研究(A)	0	0 (0)
若手研究(B)	50	82,810 (19,110)
若手研究(スタートアップ)	2	2,366 (546)
特別研究員奨励費	4	3,000
奨励研究	7	3,760
計	175	386,126 (82,023)

※()は間接経費を内数で示す
平成22年度
平成22年度中の研究者の転入、転出及び経費の繰越承認に伴う増減は含まない

奨学寄附金		
区分	件数	金額(単位:千円)
一般	680	561,749
助成金	39	48,316
計	719	610,065

平成22年度

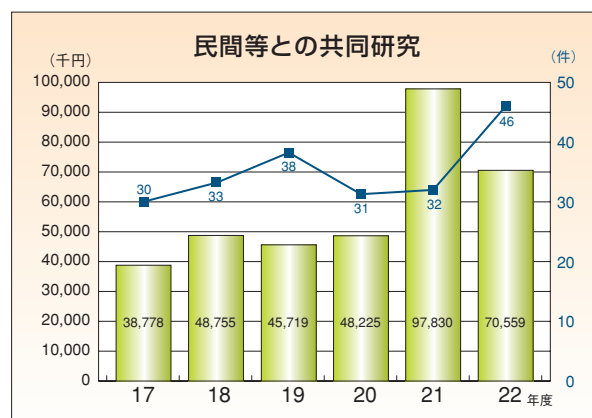
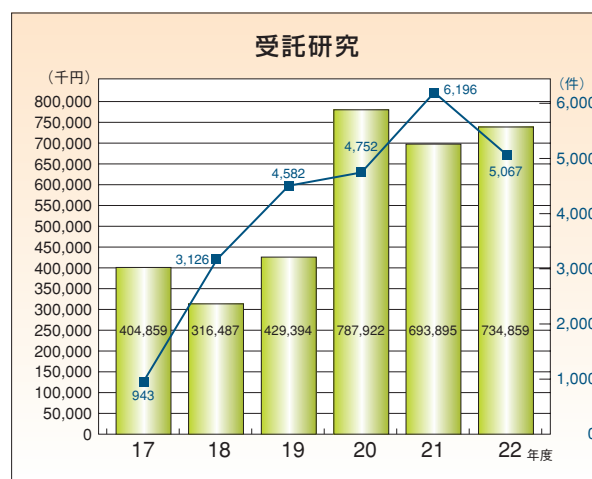
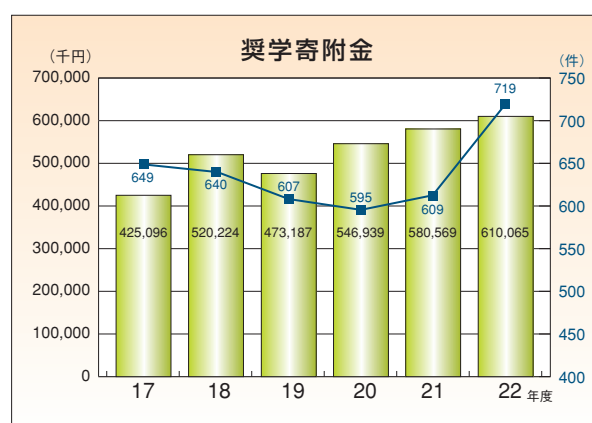
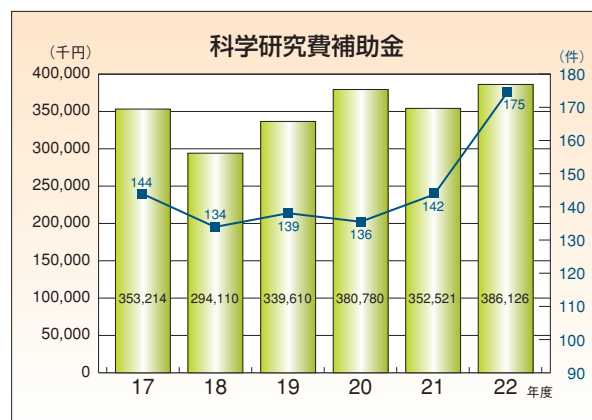
受託研究		
区分	件数	金額(単位:千円)
一般	54	391,492
治験	253	312,816
病理組織検査	4,760	30,551
計	5,067	734,859

※平成16年度より病理組織検査を含めて掲載する
平成22年度

民間等との共同研究	
件数	金額(単位:千円)
46	70,559

※共同研究員費を含む

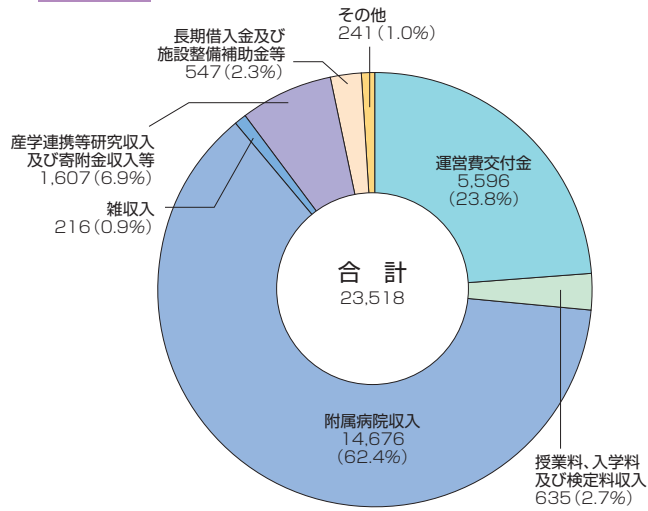
平成22年度



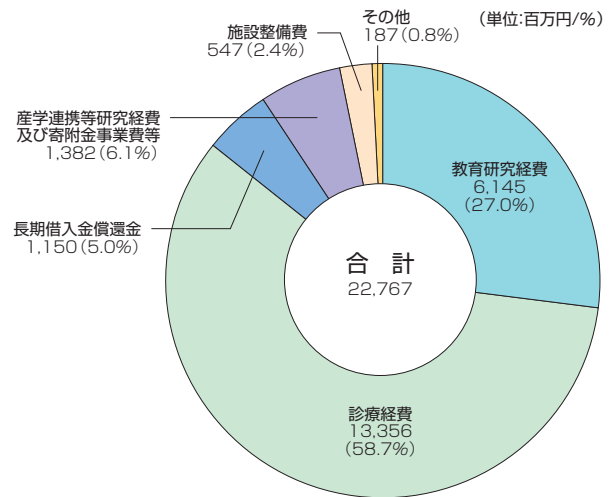
■財務、土地及び建物

●平成22年度決算額

収入



支出



●土地及び建物

平成23年5月1日現在

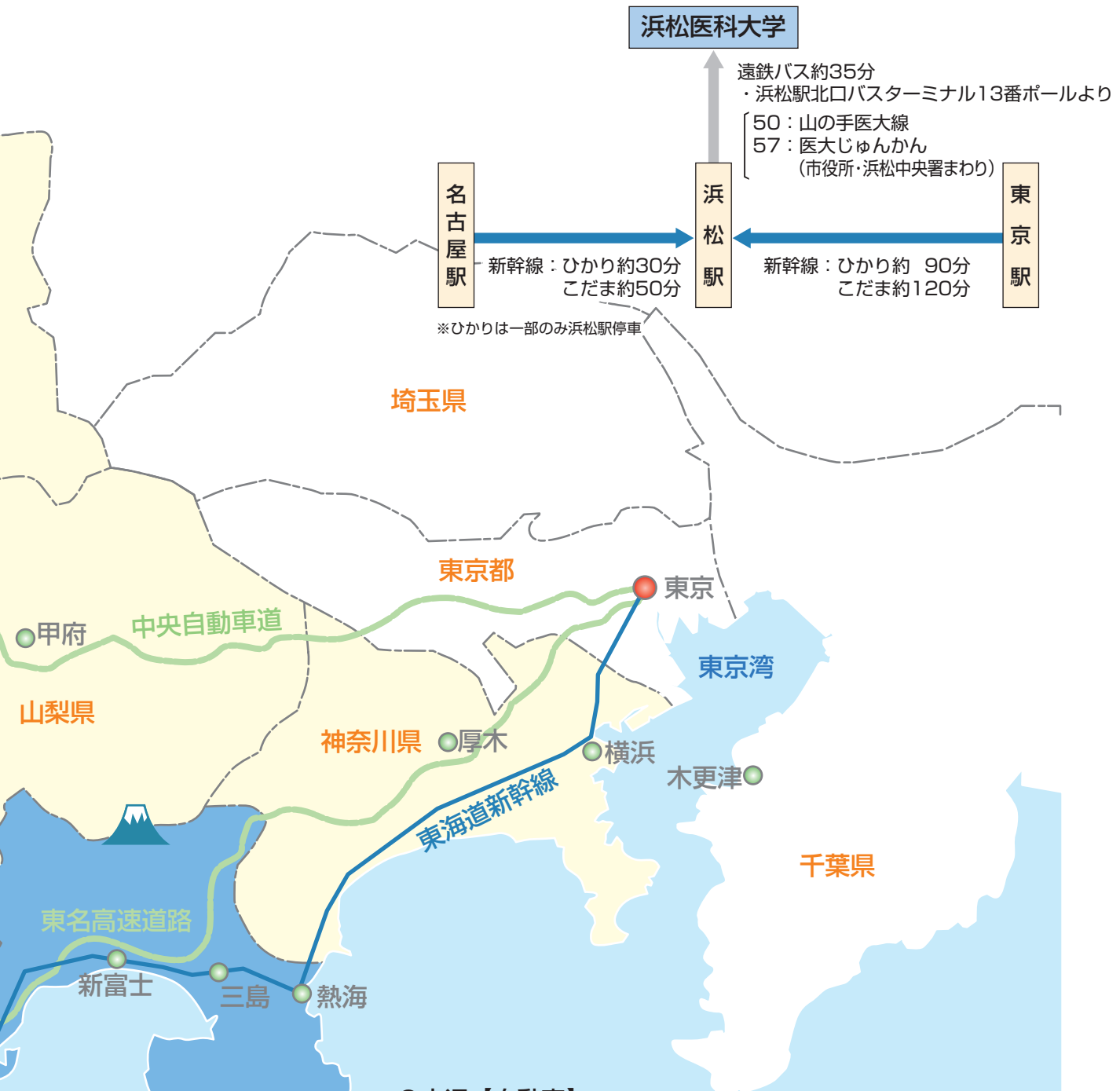
区分 口 座	土 地	建 物		備 考
		建 面 積	延 面 積	
本 部	265,154 m ²	9,908 m ²	21,953 m ²	管理棟、職員会館、福利施設棟、体育館、課外活動施設棟、エネルギーセンター、武道館、附属図書館、国際交流会館、弓道場、保育所、立体駐車場(職員用)、その他
医 学 部		8,251	38,633	講義実習棟、基礎臨床研究棟、臨床研究棟別館、臨床講義棟、RI動物実験施設、看護学科棟、メディカルフォトンクス研究センター、サイクロترون棟、その他
附 属 病 院		16,076	82,731	附属病院、MRI-CT装置棟、中央診療棟、PET-CT棟、立体駐車場(患者用)、その他
看 護 師 宿 舎		1,419	5,526	医大舟岡山宿舎 2棟 129戸 〔構造RC-規格a 94戸 構造RC-規格b 35戸〕
職 員 宿 舎 (二)		897	3,313	医大半田山宿舎 3棟 60戸 〔構造RC-規格c 10戸 構造RC-規格b 50戸〕
職 員 宿 舎 (一)	35,408	3,845	13,753	医大宿舎 11棟 198戸 〔構造RC-規格c 188戸 構造RC-規格b 10戸〕 学長宿舎 1棟 1戸 (構造W-規格e)
佐鳴台宿舎(一)	365	106	106	副学長宿舎 1棟 1戸 (構造W-規格e)
佐鳴台宿舎(二)	707	207	207	副学長宿舎・事務局長宿舎 2棟 2戸 (構造W-規格e)
三ヶ日艇庫	502	114	114	艇庫
計	302,136	40,823	166,336	

案内図

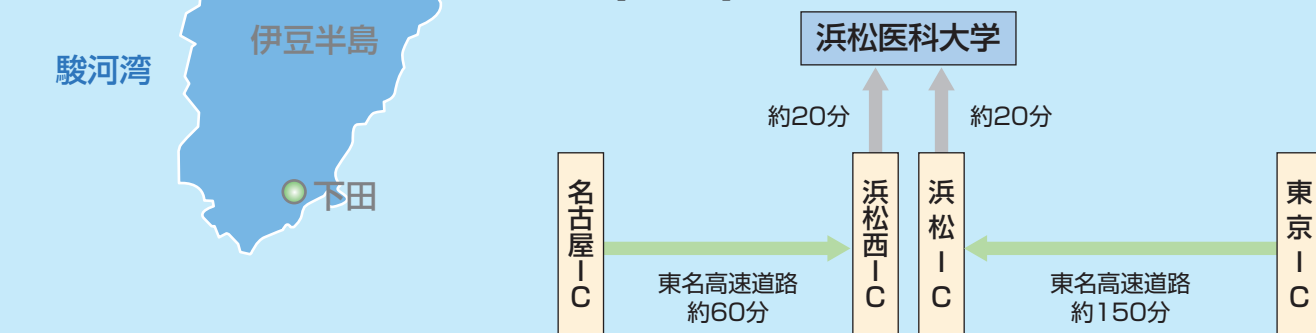
※ 浜松医科大学は、浜松駅から約10.6km北方に位置しています。



●交通【新幹線・バス】



●交通【自動車】



配置図



- | | | | |
|------------------|-----------------------|---------------|------------|
| ① 医学部附属病院 | ④ 医大前バス停 | ⑦ 講義実習棟 | ⑩ RI動物実験施設 |
| ② 臨床講義棟・保健管理センター | ⑤ 探索的臨床研究施設 | ⑧ 看護学科棟 | ⑪ 福利施設棟 |
| ③ 管理棟 | ⑥ PET-CT棟・産学官共同研究センター | ⑨ 基礎臨床研究棟及び別館 | ⑫ 附属図書館 |



関連教育病院

名称 浜松医療センター
所在地 〒432-8580 浜松市中区富塚町328番地
病床数 606（一般600、感染症6）

- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------|------------|------------------------------|
| 13 メディカルフォトンクス研究センター
サイクロトン棟 | 16 医療廃棄物処理センター | 19 医大宿舎 | 22 職員会館「半田山会館」
医大保育所「きらり」 |
| 14 慰霊塔 | 17 野球場
サッカー・ラグビーグラウンド | 20 医大舟岡山宿舎 | |
| 15 国際交流会館 | 18 体育館・プール | 21 医大半田山宿舎 | |



学校教育法第109条第2項の規程に基づき、平成19年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受審し、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。



国立大学法人
浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111(代)
<http://www.hama-med.ac.jp/>